

14. 薄明中の怪光

大阪府池田町の福井實信君は、20日の日没後薄明中の西天に、淡紅色の廣い光をSketchされた。上部の仰角約70°、下部は地平線から數度でスツボリと切れ、薄明でも雲の反射でもないことは明かである。急激な變化があり、18時13分の出現から5分間全く消失するまで注視された。日没後間もなく、且卷雲と積雲とが同時に出現する時あらはれるのが特徴で、氣象と關係のある現象らしいといふことである。(花山急報第11號、課通信第18號)

15. 黃道光課顧問中村要先生の訃

24日急死された中村先生を悼むため、課員一般から感想文を集め、課通信第16, 17, 13の三號にわたつてこれを發表した。(花山急報第10號)

天體觀測上より見たる神戸市に於ける天氣實況

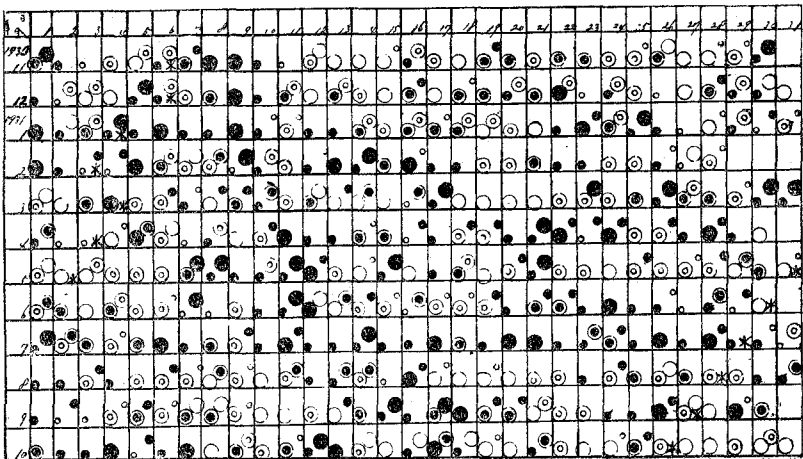
(但し其日の九時と二十一時)

神戸市 改 發 香 嶋

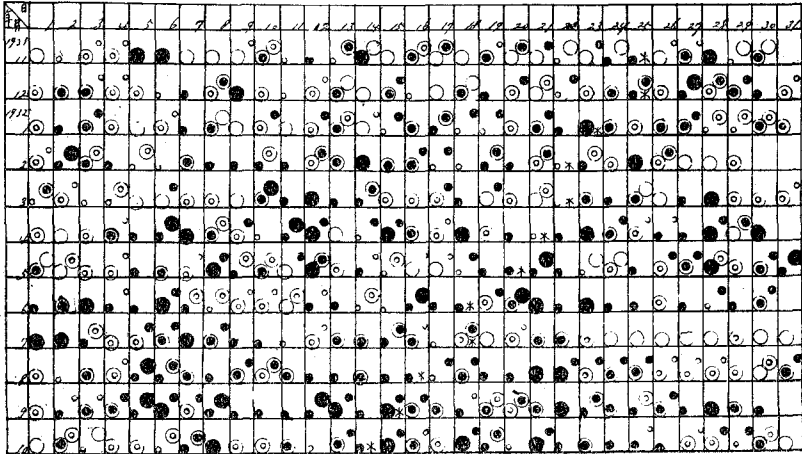
昭和五年度の天氣實況は、天界第十一卷第百十八號に發表して置きました、(百六十四頁)其の後、六年度の發表を怠たつて居りましたが、漸く整理をしましたから、七年度の分と同時に發表いたします。

符號は總て前回と同様であります、新しく御覽下さる諸兄の爲めに、茲にも再記いたして置きます。委しくは天界第百十八卷を御覽下さい。

1930—1931年



1951—1952年



符號 \* 満月  
 〃 〃 ○ 雲量 0 } 星野寫眞可能  
 〃 〃 ⊙ 〃 2.5 } 星觀測可能  
 〃 〃 ◦ 〃 5. } 觀測不確實 } 太陽觀測可能  
 〃 〃 ⊙ 〃 7.5 } 星觀測不可能  
 〃 〃 ● 〃 10.0 } 太陽觀測不可能  
 〃 〃 〃 雨又は雪 }

上表から、觀測可能日数を、算えて見ると下表の結果になります。

	五年 11月	12月	六年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
太陽觀測可能日數	23日	22日	15日	16日	24日	16日	23日	21日	9日	22日	22日	20日	233日
星觀測可能日數	19日	22日	17日	13日	15日	9日	18日	13日	3日	13日	15日	19日	176日
星野寫眞可能日數	10日	15日	9日	8日	10日	3日	9日	4日	0日	6日	8日	11日	93日

	六年 11月	12月	七年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
太陽觀測可能日數	23日	25日	26日	18日	23日	16日	19日	12日	24日	19日	12日	20日	237日
星觀測可能日數	20日	16日	15日	12日	17日	12日	16日	10日	18日	8日	7日	16日	167日
星野觀可能日數	10日	8日	11日	7日	10日	5日	11日	5日	11日	3日	3日	10日	94日

僅か三ヶ年間より記録がないから、纏まつた事は申上げられないが、太陽觀測可能の日數が、此の三ヶ年間は略々同數である事は面白い。併し太陽觀測可能日數が六十五パーセントよりなく、寫眞可能日數が二十七パーセントよりない事は洵に遺憾の極みであります。（終）

1932年十一月

觀測者(地名)	三澤(諏訪)	荒木(倉敷)	渡邊(杵築)	改發(須磨)	山田(小郡)	沓掛(長野)	森(大垣)	下保(札幌)	千葉(水澤)	木邊(近江)	大橋(京都)	松本(臺中)	龜井(花山)
1	11	11	曇	11	11	11	11	11	11	11	曇	11	11
2	14	27	忙	30	曇	曇	17	30	曇	26	15	曇	15
3	16	旅	0	20	30	19	20	22	18	23	18	缺	16
4	17	20	曇	19	17	19	26	15	雨	20	17	0	17
5	16	15	曇	16	曇	14	曇	14	0	14	0	0	14
6	雨	雨	雨	雨	曇	曇	雨	0	曇	雨	雨	0	雨
7	曇	0	雨	0	0	曇	曇	0	曇	0	曇	0	0
8	0	0	11	0	0	缺	曇	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	缺	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	曇	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	11	11	0	12	11	11	11	11	0	11	12	0	0
12	12	0	0	0	11	11	0	雨	曇	0	雨	曇	0
13	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	雨	雨	缺	曇
14	雨	雨	雨	雨	13	雨	雨	15	曇	雨	曇	14	雨
15	13	15	0	曇	15	11	0	曇	曇	14	雨	0	0
16	0	0	曇	0	0	曇	雨	0	曇	0	雨	0	0
17	12	12	0	0	16	14	12	14	0	14	13	旅	12
18	22	26	20	28	25	25	20	21	曇	22	20	旅	23
19	23	32	33	46	27	20	曇	26	23	22	23	旅	23
20	44	曇	曇	曇	40	23	曇	27	曇	23	曇	20	曇
21	24	26	26	25	26	21	19	25	19	21	21	19	19
22	21	25	21	缺	20	17	15	17	16	22	21	18	16
23	12	12	0	0	11	0	0	0	0	12	缺	0	12
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	0	曇	雨	雨	雨	0	雨	0	曇	0	雨	0	雨
26	雨	0	忙	曇	旅	曇	曇	曇	曇	雨	曇	曇	曇
27	雨	曇	曇	曇	旅	曇	曇	病	0	雨	曇	0	0
28	0	0	0	曇	旅	曇	曇	0	0	0	曇	0	0
29	0	0	曇	0	旅	0	0	0	0	0	0	0	0
30	14	15	14	14	旅	13	0	13	雨	12	0	15	13
平均	12	11	8	12	14	12	9	10	5	11	10	4	8
日數	24	23	15	19	20	20	17	26	17	25	17	21	24

### 太陽課より

幹事代理(龜井)

十一月分の觀測を御報告いたします。

我々太陽觀測者には、黒點が現れてゐないとか、或は甚だ少ないとかの場合には、それが當然のことであっても、人間的な得手勝手さから、一種の淋しみや不満を否定出来ない事がありますが、然し、極小期に向つてゐながら恰もそれに反抗するかの如くに突然大黒點が現れて活動することなどがあつて、意外の消長を繰返しつつ大勢終に如何ともなし難き極小期のどん底に迄次第に達する経過を靜觀する境地も亦否定出来ない一種の喜びです。この意味に於て……いや、理窟っぽい(?)ことはもう止めませう。

此月は悪天氣の不愉快を感じながらも、觀測は面白く行はれてゐるやうです。素晴らしい大黒點群の出現も觀測されました。それは17日に略中央子午線上に突發したもので、同日には極めて小なるものでありましたが、翌18日には實に驚くべき發達をして、一躍大黒點になつてゐたものです。そして23日に西邊に没するまで活動をつゞけてゐました。

このはげしい變化は直ちに三澤氏からハガキにて急報されました。即ち、『極めて急激の發展で過去10年間中恐らく初めての様に記憶します』と、流石の氏も驚かれた程のものでした。

大阪の熱心家伊達氏より、10月中旬から病氣にて缺測、來年1月より觀測の豫定との御通知がありました。

「極年のため」の此月の寫眞觀測は、撮影數33枚、撮影日數18日、悪天氣のための缺測が12日でありました。